

# Letter from

Human

Culture

Communication

with Love

## Contents

- ・代表理事新規就任のごあいさつ  
新規代表の浅野よりご挨拶と自己・他己紹介
- ・はじまりは一粒  
末富美鈴さんの活動のきっかけや想い
- ・ねこのひたいはせまいのか？  
フェアトレードのスタッフ甘中さんのつれづれ

## 活動予定

- (1) フェアトレードショップ「ねこのひたい」  
(まちなか交流館水曜定休)
- (2) ゆるカフェ (まちなか交流館毎週土曜 16時)
- (3) フェアトレードの勉強会 (9～10月予定)
- (4) グリーンツーリズム with 台湾 (10～11月)

## 代表理事 就任のごあいさつと他己紹介

みなさまご健勝のことと存じ上げます。このたび、末富孝也氏の HCC グループ代表理事退任に伴い、わたくしが若輩ながら就任することとなりました。会員みなさまには、引き続き倍旧のご厚情を切にお願い申し上げます。

お目にかかる機会がなかった方もおられますので、簡単に自己紹介をいたします。わたしは、大学では環境デザイン学を専攻しており、住民参加のまちづくりを研究テーマにしておりました。NPO 活動に実際に関わったのは、1995 年の阪神・淡路大震災後の復興まちづくり以降で、神戸市の西須磨地区と長田御蔵地区で活動しておりました。

HCC グループの方々にお会いしたのは、5 年ほど前になります。当時は、朝市もはじまったばかりで、どこか初々しい感じがいたしましたが、わたしは不勉強で、地産地消の意味も理解できずにおりました。みなさまにいろいろなことをご教えたいただきながら、すこしずつその意義や楽しさが理解できるようになりました。さらに都市と農山村の交流プロジェクトや中心市街地の活性化など、大津を始め、滋賀県のまちづくり事業を企画・運営する機会を得て、NPO 運営の手法等も学ぶことができました。

HCC グループの大きな魅力は、さまざまな世代、職業の方が集って、ひとつの事業を豊かにしていることです。その魅力を今後も受け継いでいきたいと思っております。そのために、法人運営の基本にしたいことが 2 点あります。

第 1 点は、前理事長夫妻から継承したいことです。それは「楽しむこと」、さまざまな志をもってこられた方が楽しめる場所をつくることです。事業をすすめるためには、責任の所在等も問われますが、NPO の理念に立ち返りつつ、多くの方との協働作業自体を楽しみ、事業の幅はもとより、市民社会そのものを開いていければと思います。

第 2 点は、「意識的につなぐこと」です。HCC グループの活動の核となっている主婦の方々は、消費者運動などの長い活動経歴をお持ちですし、若い学生は、まちづくりや NPO 活動に高い関心を持っています。そうした背景や経緯を伝えたり、つないだりすることは、今後の豊かな市民社会の形成に重要なことだと考えております。

今年度の活動予定につきましては、別紙の通りです。まだ企画段階のものも多々ございますので、ご意見やご提案をいただけましたら幸いです。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

<浅野智子>



## 浅野理事長はこんな人「巧みに料理をする人」

こんにちは。HCC グループのスタッフ高峯と申します。今日は理事長の浅野さんについてご紹介します。

浅野さん(の、ごく一部)をひとことで表現すると、「巧みに料理をする人」です。といっても、本当の料理作りのことではなく(そちらもお好きですが)、HCC グループのスタッフとして、お客様(地域の皆様)の希望を聞き、様々な素材(人・もの・こと)を余すことなく調理(マネジメント・企画)し、巧みに料理(実施)へとつなげていきます。

料理人は、素材がなければ調理することができませんし、調理を通じて輪が広がることや、作った料理を楽しんでもらうことを何よりの喜びとしています。

あなたが HCC グループを通じて実現してみたいことや、もっている素材(情報や資源)を、まずは伝えてみてください。そこからきっと何かが、始まると思いますよ。

それから猫と甘いものが大好きです。おいしいスイーツ情報がありましたらぜひお待ちしております♪<高峯陽子>

## はじまりは一粒から

あれは、かれこれ30年も前のこと。一冊の衝撃的な本が私の所に廻ってきました。友人から有吉佐和子氏の「複合汚染」が届いた日のことは今でもよく覚えています。

「何もかもがこんなに添加物だらけだなんて。いったい子どもたちに何食べさせたらいいのだろう」

その日から私の『安心でおいしい食べ物探し』が始まりました。主人も忙しい仕事の合間に私の食べ物探しに付き合ってくれました。まだその頃無農薬で野菜を作っている人など本当に少なかったのです（今でも少ない）。主人の転勤の度に新しい仲間を募り小さな会を作ってきました。

団地の一件一件にチラシを配り「その季節その季節に畑で採れるお野菜を一緒に頂きませんか」と呼びかけて、仲間と勉強会をしたり色んな加工食品を取り寄せる仕組み作りにも精を出しました。それがNPO活動とも思わずに自然とそうやって行ったのです。

主人が帰ってくると、うちのピアノの上は食品の注文票と伝票だらけ。「いつからうちは八百屋になったんや」と笑われました。

最初は安全な食べ物を求めるために作った会だったけれど、こうした人と人の繋がりは他には得がたい幸せなものでした。その活動の中で食べ物以上の色んな気づきが得られたのです。

「人は一人では本当の意味で幸せにはなれない」

これが私たちのHCCグループの基礎となった様に思えます。

最初は「あれがダメ」「これがダメ」とマイナスばかりが目についていた私たちでしたが、これでは何もいいことが始まらない。「この方法がいい」「こんないい物がある」「こ

んないい所がある」HCCはプラスを打ち出していこう、明るいこと、楽しいことを発信していこうと話しました。その結果が今のHCCです。

食から不登校のこと、住宅のこと、環境のことと、どんな活動は広がっていきました。

20代から70代まで幅広い仲間が集まりHCCの活動に参加しています。

発足から10年を経て、今年このHCCの活動が若い素敵なメンバーに引き継がれることになったことは何より嬉しいことです。

自分が心に思い描けることは実現可能なことだそうです。世界がどんどんグローバル化し、私たち人間は無機質で孤独な存在になっていっている様に思います。

人と人との繋がりをもう一度取り戻し、暖かい有機的な輪の中で助け合いながら生きていきたいと思えます。今後HCCグループがどんな風になっていくのか、とても楽しみです。

<末富 美鈴>



## ねこのひたいはせまいのか？

「フェアトレード」初めて私がその言葉を耳にしたのはもう何年前だろう。日々の何でもないお買いもの「生産者が作る→売る→私たちが買う」一見とってもシンプルに見える繰り返し。がんばって作り、売れば報酬が手に入る。そんなごくごく当たり前と思っていた事があたりまえじゃなかったなんて…。欲しかったモノを買えるときと誰しもハッピーな気持ちになれる。でもそのモノが、強制的な児童労働や・過酷な労働条件・そして作った労力に見合わない報酬しか得られない…そんな作り手にとってフェアじゃないモノだったならきっとハッピーな気持ちにはなれない。あア、私はできるなら後ろめたくないお買い物をしたい、機械的に作られた沢山のモノより、小さな生産者によって丁寧に作られたモノを選びたいんだ。

「猫の額」は極めて狭い事の例えだけれど、私たちのお店「ねこのひたい」はきっと…狭くないと思う。私たちができる事はほんのわずかな事かもしれないけれど、狭くあってはいけないと思う。この空間からほんのチョッピリでも、生産者にもお買い物して下さった「アナタ」にもシアワセが、ツナガりがどうか生まれますように。

<甘中裕美子>

## 編集後記

最近、雨が降り始めてようやく梅雨らしくなりましたね。雨の合間に外を眺めると、滴がのった葉がきれいです。

こうして、みなさまにおたよりを出せるのもこれからの楽しみです。事業でご協力をお願いすることも多いと思います。今回は Yumi さんにイラストを画いていただきました、スタッフも大募集中です。どうかよろしく願いいたします。< A >